

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 稲城市立稲城第二中学校 (※正式名称を記載)

種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}

中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校

教員養成大学 専修学校、各種学校

特別支援学校

その他 (例：小中高一貫)

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒206-0822

東京都稲城市坂浜1346

E-mail inagi2j@educet.plala.or.jp

Website _____

幼児児童生徒数 男子 133名 女子 118名 合計 251名

幼児・児童・生徒の年齢 12歳～15歳

2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

※報告書提出時点～平成30年3月末までの活動は、予定(見込み)として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要 (800字程度+活動内容を表す写真数枚)

※チェック事項1-1、2-1に対応

本校は、「21世紀をたくましく生き抜く生徒の育成」を学校理念として、ESDの実践を通して社会の変化に自律的に対応でき、社会的、職業的に自立を図る生徒の育成を目標とした。

具体的には、①授業改善に向けた取組、②教科等横断的な視点による組織的な取組、③外部人材や地域資源等の活用を柱に取り組みを行なった。

①授業改善に向けた取組

課題発見・解決力、表現する力、人と関わる力の向上を目指し、主体的に物事を考える態度、多様な視点からの柔軟な発想力を高める授業改善を進めた。また、グループでの討論、協同して物事に取り組む活動を増やした。そのことにより、様々な立場や状況の人々の理解を深め、コミュニケーション能力の育成ができた。また、紙面発表、プレゼンテーションの機会も意図的に取り入れ、表現のスキル向上を図ることができた。

②教科等横断的な視点による組織的な取組

各教科、領域におけるESDの視点を生かした実践を行なった。たとえば、理科、社会科、技術・家庭科では環境エネルギーについて連携を図り授業展開を進めるなど、効果的な学習方法を探った。また、日本文化伝統教育として音楽科で箏の授業、総合的な学習の時間と家庭科との連携で、茶道、着物についての学習活動を進めるなど文化についての意識を高めることができた。また、1学年は野沢温泉村宿泊体験で人とのかかわりやつながりを深め、2年生は、浅草方面での下町校外学習、3年生では、京都・奈良への修学旅行を実施し、自然、文化・伝統や歴史、についての意識を向上させることができた。

③外部人材や地域資源等の活用

【キャリア教育】

職業調べや地域の方から職業についての話を聞くなどの機会を設け、就労・職業に関対する関心を高めている。将来の希望などをもち、その実現のために自己を高めようとする態度を育んだ。また職場体験等では地域の事業所等での勤労体験を行なうことにより社会性・勤労観・職業観を育成するとともに、人と人のかかわりの大切さを学ぶ機会となっている。また、ハローワークとの連携を図り、講師を招き「働くこと」「職業について」「社会人として」等の講義をいただきキャリア教育を進めている。

【防災教育】

地域別集団下校訓練や「自助パック」、地区防災訓練等を通して、自らの生命・身体を自ら守る態度を育てる。また消防署・地域との連携を図り、地域防災訓練を行う等、地域防災の意識を高めた。

【地域から学ぶ】

地域でのボランティア活動の活性化を図った。「社会を明るくする運動」での活動や、地域行事への参加の機会を増やした。「盆踊り」「賽の神」など地域の伝統・文化に触れ、地域の方々との交流を深め、地域への意識を高めた。



再話（表現する力）



本校和室での茶道体験
（日本伝統文化）



防災訓練（消防署との連携）



賽の神でのボランティア活動
（地域の伝統文化）

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input checked="" type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input checked="" type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input checked="" type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述)	

エ. 使用した教材 (書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名)

--

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

- ①授業改善に向けた取組
【課題発見・解決力】 【表現する力】 【人と関わる力】 を育成
- ②教科等横断的な視点による組織的な取組
・各教科、領域におけるESDの視点を生かした授業
・環境教育 ・福祉教育 ・キャリア教育 の推進
- ③外部人材や地域資源等の活用
【自然・環境を考える】 【生き方を考える】
【日本の文化、歴史を知る】 【国際理解】 【地域から学ぶ】 を意識した交流教育活動

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

ESD全体計画、ESDカレンダーの作成をしている。ESD教育推進担当者を中心とした組織を設置し、計画に基づき年間を通した各学年の取組の計画を行ない実践している。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

身に付けさせたい力（観点）及び評価方法

課題発見・解決力、表現する力、人と関わる力の評価について生徒評価、保護者評価、外部（学校運営協議委員）教員評価を行なっている。成果は表現する力が高まっている。しかし、様々な学習の中で、応用力が充分でない結果がみられ、課題発見・解決力については今後の課題である。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

稲城市内で「ESD」の推進に取り組んでいるため、市内の学校間での活動内容の共有は図れている。また、発信方法は「学校たより」「ホームページ」等で教育活動を発信している。また、地域との連携の機会も多いため地域での理解も深まっている。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)
(200字程度) ※チェック事項 2-3 に対応

- ・ 消防署
- ・ 地域消防団
- ・ ハローワーク
- ・ 地域高齢者施設
- ・ 保育園・幼稚園

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度) ※チェック事項 2-4 に対応

稲城市内小中学校がユネスコスクールであるため、市内での活動についての確認は行っている。また、本校ブロックである2つの小学校とは連携を図り、小中の連続を視野に入れた教育活動等の推進を図っている。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）
※チェック事項 2-5 に対応

ESDの意識や大切さについて学び、ユネスコやユネスコスクールについての学びを深められる。また持続発展可能な社会を実現するためにはどのようにしたらよいか、課題を立て、解決策を考える教育活動を進められている。

(3) 平成30年度の活動計画（200～400字程度）

ESDの実践を通して社会の変化に自律的に対応でき、社会的、職業的に自立を図る生徒の育成を目標とする。

①授業改善に向けた取組、

【課題発見・解決力】 【表現する力】 【人と関わる力】を育成

②教科等横断的な視点による組織的な取組

- ・各教科、領域におけるESDの視点を生かした授業
- ・環境教育 ・福祉教育 ・キャリア教育 の推進

③外部人材や地域資源等の活用

【自然・環境を考える】 【生き方を考える】

【日本の文化、歴史を知る】 【国際理解】 【地域から学ぶ】を意識した交流教育活動

今年度の活動計画をさらに深めた内容と充実を計画している。また、課題である課題発見・解決力については、各教科の授業改善を図り、向上を目指す。